

# 「京都の歴史を歩こう！ 2015 上賀茂編」 歴史遠足報告

上原 駿一

2015年3月14日、京都府立総合資料館と共同で「京都の歴史を歩こう！ 2015 上賀茂編」の府民向け遠足がおこなわれた。遠足の目的は、観光雑誌には載っていないような歴史を紹介することで、地域の皆さんにその地域の魅力を再発見していただくことである。そのために過去と現在のつながりを調べ、現在いる場所が過去はどのような景観であったかを説明していった。今回の遠足のルートは、上賀茂の歴史を近代から古代まで遡れるような構成となっており、上賀茂の特色は賀茂川や明神川など豊富な水源に恵まれた土地であること、京都近郊に位置し外来文化を受け入れながら発展したことにあるため「さかのぼり」「水と近郊のまち上賀茂」という二本柱をセールスポイントにしている。

当日はあいにくの雨ながら、上賀茂を歩くことになった。資料館で上賀茂の絵図を見るところもあったが、全く歩けない天候ではなく、地域の歴史を実感していただくには歩くのが一番と考え、実施することにした。

ガイド役の学生は、受付や最終の打ち合わせのため午前9時15分に集合した。一般の方の受け付けは9時30分から始まったが、当初の予想をはるかに超える43名の方が参加してくださいました。参加者の内訳も、小学校5年生や高校生から、疎水に含蓄のある方まで幅広く、印象に残るものであった。

10時に最終的な参加者の人数が確定し、ガイドと参加者は北山通り沿いの門へと移動した。参加者3-4人につき学生一人が付くように振り分けられたが、参加者に付く過程で時間をかけすぎたため、30分ほど予定がずれ込んでしまった。参加者名簿は前日に皆で確認し、誰が



写真1 受付の様子



写真2 資料館での振り分け



写真3 紙芝居で解説

要因から、明治29年(1896)と明治40年に日本陸軍の兵営地を誘致する計画が存在した。そうした事実を、ガイド作成の地図をお見せしながら解説した。

どなたに付くかも決めてあったが、参加者を認識するのに手間取ってしまい遅れにつながった。このことは今回の反省点である。

振り分けが終わると、その場で説明が始まった。内容は「近代の上賀茂」で、鞍馬街道・上賀茂と軍隊の関わりを軸に説明された。鞍馬街道は現在の北山通や下鴨本通が開通するまでメインストリートとして栄えた。また、上賀茂は賀茂川や支流である明神川が流れる水が豊富な地域であり、京都市内と街道で結ばれる地理的

「近代の上賀茂」の説明後、資料館を出発し北山通を北上、次の目的地である穂根東公園まで歩いた。この間、ガイドは鞍馬街道について、さきほどの内容を補足する形で自分が知っていることを参加者にお話ししていく。

穂根東公園では、「上賀茂の農業」というテーマで、上賀茂の特産品であるすぐきの製造工程を紹介した。スケッチブックに工程ごとのイラストを貼り付け、それをめくって紙芝居仕立ての説明をした。また、穂根東という文字は中世には「骨塚」と書かれていたことから、「中世の上賀茂～田地・地名」というテーマで町名から見た上賀茂の過去と現在についても説明があった。

地名についての説明が終わると、10分休憩を取った。ここで、参加者と担当ガイドを2班に分け、班ごとに異なるルートを行くことにした。1班(先発隊)が穂根東公園→北大路魯山人の碑→大田神社→社家町→上賀茂神社の駐輪場、2班(後発隊)が穂根東公園→大田神社→北大路魯山人の碑→社家町→上賀茂神社の駐輪場と進むルートである。このため1班は2班より5分早く穂根東公園を出発し、大田神社で2班を待つ。2班は大田神社まで行き1班と合流したのち、1班が社家町へ向かったのを確認して魯山人碑に戻り、そのあと社家町へ向かうという要領である。実はこの二手に分ける方法は今回が初めてで、今後に向けての実験例となった。このため、次回以降にこの方式を採用する際は改善が必要であろう。

大田神社では、有名なカキツバタや、これを詠み込んだ賀茂季鷹の歌、さらに祭神についてスケッチブックを用いて説明があった。神社に柳原愛子(大正天皇の生母)が寄進した灯籠があることを参加者にお伝えすると、参加者がとても興味深く聞いていらっしやったことが印象的だった。また、北大路魯山人の碑の前では、上賀茂の社家に生まれた魯山人が上京してから自身のルーツを探りに上賀茂へ来たことや、思い出が義母(上賀茂の駐在警官の妻)に背負われて見た上賀茂の夕焼けだったことなど魯山人と上賀茂の固い結びつきが説明され、熱心に聞いてくださった参加者が多かった。

社家町では、上賀茂神社の末社である藤木神社にて説明を行った。社家町には明神川が流れ

ているため、川と社家町に関するクイズを出題した。クイズということで、参加者が参加しやすい形式をとったためか、関心を持って下さった方が多いように感じられた。

1班は説明とクイズが終わると社家町を歩いて上賀茂神社の駐輪場まで向かった。2班も1班が出発した後、説明とクイズをガイドから受け、同様に上賀茂神社を目指して歩いた。

1班と2班は上賀茂神社で合流し、「古代の上賀茂」というテーマで解説とクイズが出された。ここでは上賀茂神社には勅使が派遣され、皇女が斎王として居たことや、賀茂一族には代々特定の名を受け継ぐ系譜があり、その特定の名を受け継いだ家の方に価値が置かれるという独特の伝統について解説された。

上賀茂神社ですべての解説が終了したあと、参加者に遠足のアンケートを書いていた。また、個別に熱心に質問をしてくださる方もおり、改めて関心と呼ぶテーマであったことを実感した。アンケートを回収し、12時30分頃解散となった。

学生は14時から大学で反省会を開いた。まず資料館職員から意見を拝聴した学生から、事前に連絡があれば史料を用意できていたこと、史料を使用すれば調査がスムーズに進んだであろうから資料館を活用して欲しかったという内容が伝えられた。

学生側からは多様な意見が集まったが、最も多い意見としては事前の詰めが不足していたことが挙げられる。具体的には資料館や教員と学生の意思疎通が上手くできなかったこと、受付の段取り確認を徹底させておくことである。その他、既にほかのグループの参加者同士が仲良くなっていたのに班分けによって分けてしまったことや、同じグループでも灯笼などポイントをじっくり見たい人と早く



写真4 カキツバタ



写真5 魯山人



写真6 藤木神社



写真7 上賀茂神社

歩きたい人がいるなど、グループ編成についても課題が見つかった。今回は雨天開催だったが、次回以降同じような状況の際には、歩行のペースも検討する必要があるという意見も出た。

2014年5月から約1年、地域の歴史の魅力をお伝えしていく中で、学生自身も歴史学で培った方法を実践するため試行錯誤を続けた。この過程で学んだことをデザイン研修終了後も自身の研究で活かし、後輩に伝えることが次につながると考えている。そのきっかけとして貴重な体験をさせていただいたことを感謝し、締めくくりとしたい。